

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組 全体総括について

項目	これまでの主な取組	今後の方向性案 概要	いただいた御意見（抜粋）
地域レベルの新たなしくみ	・まちのひろばの見える化 ・仕組みづくり	・見える化の更なる推進 ・ターゲットと効果的な手法の検討 ・「公共施設の地域化」に向けた職員意識改革	・「まちのひろば」が見える化され、地域の人がそれを見て、閉じこもらずに活動に出ていこうかなというきっかけになる。 ・公共施設の使い方自体を地域で決めれると更に良くなる。 ・気持ちを耕すという人材育成の視点を持つことが大事。 ・担い手になった時に、悩みをもみほぐす場のようなものがあると、活動の担い手が増えていくのではないかな。 ・公的な「まちのひろば」が見える化する一方、勝手に活動している「まちのひろば」が広がるような仕掛けも面白い。 ・他者の傾聴や承認、励ましがあることでアクションに移れる層がいる。 ・今は活動していない層もターゲットにしていくと良いのではないかな。
区域レベルの新たなしくみ	・SDCの創出及び運営に向けた取組 ・地域デザイン会議の試行	・創出及び運営支援に向けた取組の継続 ・地域デザイン会議の試行及び検証、本格実施	【SDCについて】 ・行政が絡むことの意味合いや、市民の担い手がどのように受け止め前向きにやっていけるか、見えてくると良い。 ・行政がSDCというスキームに参加する、そこを目指していく。従来の行政参加（市民が行政に参加する）と意味が違う。 ・スタートアップで一番大切な支援は、ソーシャルデザインとは何か、みんなで共通の認識を持てるようにすること。その中から具体的な姿が立ち上がってくる。そのファシリテートが行政の役割。 ・SDCの可能性は、誰が入っても構わないこと。人的な流動性があること。 ・生きることそのものを楽しんだり、自分が当事者となり周りを巻き込んで解決しようという市民の声をどう拾うかという時に、SDCがある。 ・SDCの価値は、現場で市民が話し合い言語化されていくもの。最終的に7つのSDCが互いに学び合えるネットワークを作ることが大事。 ・試しでやるのは大事で、やってみたらこういうことだったのかと分かる。その上で、行政に関わる以上、市民にとってどういう意味があるのか議論することが大事で、そこから資金をどうするのか、政策化するかなど話が進むかどうか、役所としてどうSDCに関わるかということにつながる。 ・ソーシャルデザインは「外連（けれん）」。面白いことや楽しいこと、変わったことをやっている人達をある意味呼び寄せひきつける。 ・継続的な運営には、どうあるべきか語り続ける機能が必要。マンネリ化せず、常に開かれているという意味でも大事。 ・安定性のある機能がないと、開かれていても何も進まないとなりかねない。理事やスタッフはボランティアとしても、事務局という機能は一定程度インセンティブを含めて、仕事ができる機能を取り付ける必要があるのでは。 ・できれば上手くデザインをして、市民の方々から事務局となる人がでてくる、そして変わっていくことが必要。語り続ける機能と、事務局の絶妙な設計というのが、SDCがうまくいくためのこだわりポイントだと思う。 ・資金や場の話は、SDCの価値の言語化や目指すものなどの議論の中で出てくるもの。それありきで入ってしまうと、結局既存の枠組みの中でどうするかという話に落ちてしまう。何をどのようにやっていくのが先にあってその後に手法や手段を考えた方がよい。 【地域デザイン会議について】 ・自治基本条例上の区民会議は区民が参加する会議を総称した言葉と理解すれば、現状の地域デザイン会議も区民会議とみなせる。
地域レベルと区域レベルにおける「新たなしくみ」とその関係性について	同上	同上	
既存施策の方向性	・まちづくり推進組織、区民活動支援コーナー等、市民提案型事業等の整理検討	・SDCとの機能分担等、引き続き整理検討を行う	・これまでの施策のどんな課題がSDCの創出や運営によりどのようにいい方向に変わっていくのか出せると良い。 ・健康な段階である創出期から踊り場に至り停滞していく大きな理由は、人的な流動性、世代間継承が失われたこと。 ・これまでは提案させて「お金をつけてあげるよ」というベクトルから市民が勝手にやっているものに行政が「政策にさせてください」と発想を変えていく必要がある。
町内会・自治会等、住民自治組織に関する新たな取組の方向性	・こども町会長、活動応援補助金の創設、電子化媒体活用促進業務、依頼ガイドライン 等	・補助金好事例の横展開等個別支援の強化 ・一括配送等負担軽減策の推進 ・補助制度の見直し等市民創発に向けた見直しの検討 ・マンション好事例の共有 等	・負担軽減については将来に向けて減らすことが大事で、軽減が見える化することで庁内的な抑止になる。 ・行政と町内会が向き合って話すことで施策が更に進むと思う。 ・従来から町内会が取り組んでいる防災や防犯といった事柄に加え、子育てや人権、環境、障がい者の支援といった、同じ地域で取り組む他の団体と取り組むことで、町内会の活動も広がり、加入促進にもつながるのではないかな。 ・補助金を受けることをきっかけに町内会と組織外の人が連携する取組が広がるとよい。 ・町内会は地域社会を捕捉する機能を持っており、他の団体が強みとするサービスを提供する機能と双方をミックスさせることで市民創発につながり、地域のステークホルダーとして機能を果たせるのではないかな。
市域レベルの「新たなしくみ」の今後の方向性	・市民活動センターの各種取組 ・中間支援ネットワーク連絡会議の実施 等	・ニーズを踏まえた取組の推進 ・SDCとの連携に向けた検討 ・市域レベルのネットワークの更なる構築	
行政スタイルや組織のあり方	・地域化、地域デザイン会議の試行等 再掲		
職員の意識改革や人材育成等	・まちのひろば職員プロジェクト等	・研修の企画実施。	